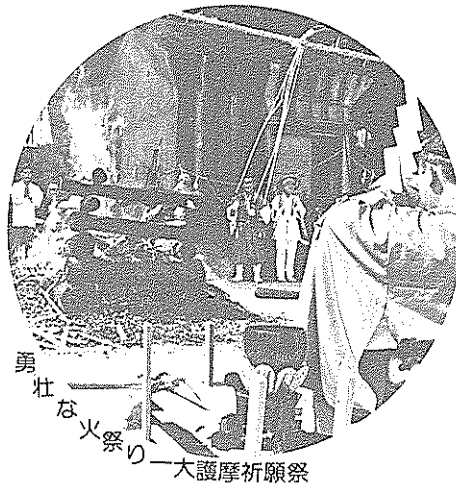


ホラ貝響き〇〇〇〇

大護摩祈願祭

|| 十市石土神社 ||



勇壮な火祭り 大護摩祈願祭



願いを書いた護摩木を1つ1つ火の中へ

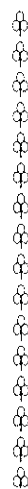


けがれを消し生まれ変わる、火渡りの儀

十市石土神社の大祭が七月一日から十日まで開かれました。この神社は今から千二百年ほど昔よりある由緒ある神社で、愛媛県石鐘神社を奥の院ととなえ、当社は前の宮と呼ばれています。一日は山開き。午前九時、境内にホラ貝の音が響き、信者ら約百人が見守る中で、修験者が石土彦命などのご神体三体を背負い、高さ約十メートルある岩場を伝って登り、石土山の「天上」にご神体を移しました。信者もそれに続き、ご神体を体当てもらい無病息災の加持を受けていました。

六月は大護摩祈願祭。午後一時境内は最高のにぎわい。装束に身を包んだ修験行者が、儀式に従い

まず道場を清め、いよいよ護摩に火が入られました。そして、信者らの願いが書かれた護摩木約一万本を修験行者がその願いを読み上げ一つ一つ投げ込みました。真赤に燃え上がる炎と、錫杖（しゃくじょう）が境内に響き渡り、火祭りは最高潮。



護摩木がすべて焼かれた後は「火渡りの儀」。これは「煩惱やけがれを消し、清浄な体に生まれ変わることを意味するそうです。まず、修験行者が気合とともに渡り、一般信者もそれに続き、中には小さな子供が熱さをこらえて渡る姿もありました。

愛の一声で非行防止を

青少年育成協議会が啓発パレード



非行防止を呼び掛け市内をパレード

「青少年を非行から守る全国強調月間」の七月五日、PTA、子ども会、婦人会など青少年育成南園市民会議のメンバー約五十人が非行防止を呼び掛ける市内パレードを行いました。

出発に先立ち、市役所会議室に全員集合。池田久利南園警察署長が、現在の少年非行について説明

した後、鈴江教育長は「補導される件数は少なくなっているが、中学生の問題行動は増加しており、非行が潜在化、密室化してきている。そのため、非行防止に家庭教育が基本となってきたっており、また地域の人々の協力もなくてはならない」とあいさつ。

参加者は、南と北の二班に分かれ広報車で、「よその子、うちの子を問わず愛の一声をかけよう」など、非行防止を呼び掛けました。